







10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15A-1		富士の樹海&洞窟探険!	
定員	20人	参加費	4,500円
	9:00~17:00 終日 ※お弁当昼食	富士山の麓に広がる広大な青木ヶ原樹海、その樹海の散策と樹海の中にある洞窟へと入る探険を行います。1150年前の噴火で一度死んでしまった森に新たに生まれた青木ヶ原樹海、その生命力あふれる森の散策と、観光洞窟ではない自然のままの洞窟に、皆さんをご案内します!	
	小原賢二さん ホールアース自然学校 専門職員	ホールアース自然学校勤務 5年目。前職は地域活性の仕事に従事。現職においては、登山プログラム、子供キャンプ、森づくり活動(人工林間伐や竹林整備等)、人材育成事業等を担当している。プライベートでも山登りやカヌー、旅行やキャンプ等が大好きで、外にいることが多い。一緒に楽しみましょう!	



15A-2		富士宮口から御殿場口へ~富士山5合目下山トレッキング	
定員	16人	参加費	4,000円
	9:00~17:00 終日 ※お弁当昼食	富士山富士宮口5合目(標高2380m)をスタートして、ゴールは御殿場口5合目(標高1440m)の下山トレッキング。通称「富士下山」。途中、富士山で最大の噴火口=宝永火口や、古道、側火山と、富士山の多様な魅力が感じられるルートを、富士山ガイドがご案内します。	
	夫津木学さん ホールアース自然学校 専門職員	アウトドアスポーツを通じて、自然との付き合い方、価値観が変わり、ホールアース自然学校にたどり着いた、元消防士ガイド。登山ガイドとして、信仰や山村の民話などにアンテナを張り、日本人の自然観や文化を感じるようなトレッキングツアーを目指しています。	



10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15B-1		宝永火口トレッキング	
定員	16人	参加費	3,500円
	10:30~14:30 4時間 ※お弁当昼食	富士山の楽しみ方は山頂登山ではありません！南東斜面ある宝永火口は、富士宮口から気軽に行けるのに超絶景！大きな火口に降り立つと、そこはまるでほかの惑星へ降り立ったかのよう。風が強く樹木も生えない。そんな過酷な環境でも頑張る小さな草花もご覧いただけます。迫力のある絶景と自然の美しさを全身で感じることができるツアーです！	
	斉藤大輔さん ホールアース自然学校 研究職員	スーツ歴16年。永い満員電車通勤を経て、大好きな「自然」と「子ども」に関わる仕事を求め、インタープリターへ転職。現職では洞窟樹海探検をはじめ、親子キャンプや富士登山ガイドなどの様々な自然体験活動や、里山の環境保全ボランティアを担当。プライベートでは野菜を作ったり狩猟を楽しんでいます。一緒に楽しみましょう！	



15B-2		河口湖でカナディアンカヌー体験！	
定員	18人	参加費	3,500円
	10:30~14:30 4時間 ※お弁当昼食	河口湖でのカナディアンカヌーの体験です。カヌーの操作方法はもちろんですが、水辺での安全管理、カヌー以外の楽しみ方等をレクチャーしますので、初心者でも大丈夫！	
	田村孝次さん エコビジョンブレインズ 代表取締役	英国生活時の自動車関連の仕事から一転、富士北麓の豊かな自然を舞台にカナディアンカヌー・マウンテンバイク・ネイチャーガイドウォークなどの自然体験プログラムを老若男女、様々な人たちに提供するカントリーレイクシステムズを設立。また、それに伴う「指導者養成」や「企業研修」「安全管理・対策」の講習会等も行っています。	

10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15B-3		生木を割って削って、スプーン作り	
定員	10人	参加費	1,000円
	10:30~14:30 4時間 ※お弁当昼食	生木の木工グリーンウッドワークの概要説明と木のスプーンづくり体験を行います。瑞々しい生木を削る感触を是非味わってみてください。森から伐ったばかりの木が生活の道具に早変わり。森と人との距離がぐっと近づきます。	
	小野敦さん グリーンウッドワーク 理事長	森で伐ったばかりの瑞々しい木を人力の道具を使って加工する、古くて新しい木工「グリーンウッドワーク」を広める活動をしています。昨年からは岐阜県美濃市内の森で「ろうきん森の学校」を開催。森の恵みを生活につなげる講座を定期的で開催しています。	

15B-4		鹿革クラフト	
定員	10人	参加費	4,000円
	10:30~14:30 4時間 ※お弁当昼食	富士山で自分達で獲った野生動物の皮を鞣し、革にしてもらい。その革を使ってクラフトをします。作りながらも富士山の自然の事、狩猟の事、生きる力の事を話しながら「ペンケース」か「パスケース」を作ります。手仕事しながら心地よい時間を過ごしましょう。なんとジビエの試食ありかも!?	
	浅子智昭さん ホールアース自然学校 執行役員/猟師	ホールアース自然学校歴23年。2012年にわな免許取得、2015年猟銃所持。自然と人との間の天秤を保つには狩猟が必要と考え実践中。環境教育×狩猟の切り口でも活動中です。	

10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15B-5		竹の楽器づくりワークショップ	
定員	10人	参加費	300円
	10:30~14:30 4時間 ※お弁当昼食	手仕事という言葉がありますが、自らの手を動かし、物を作るという事、ある意味面倒くさい事でもあるのですが、そんな面倒くさい事の中に、実は大切なメッセージが含まれていると思います。竹で楽器を作り、最後は自作楽器で簡単なセッションを楽しみたいと思います。「面倒くさい」を楽しむ時間、是非ご一緒にしましょう。	
	池上利也さん CONE コーディネーター	「本物の豊かな暮らし」を模索しながら、日々暮らしています。便利さと引き換えに大切なものを失いつつある今日この頃ですが、森に一步足を踏み入れ、自身と対峙する時間、時が止まり至高の次元に入る感覚が自分は大好きです。	



15B-6		アジアの自然体験	
定員	30人	参加費	無料
	10:30~14:30 4時間 ※お弁当昼食	アジア諸国の自然体験活動の実情を知り、CONEとのネットワークを深めます。福井大会から続く分科会で、今年は中国の自然学校の現状を中心に交流を深めたいと思っています。	
	森美文さん 森美文環境教育事務所 代表	専門は森林管理、環境教育。(財)日本自然保護協会研究員在職中、丹沢大山国定公園の宮ヶ瀬ビジターセンター開館にともないインタープリターとして出向。1998年、環境教育コーディネーターとして独立。その後、中国の自然体験活動指導者養成に関わっています。現在、大東文化大学非常勤講師他。CONE理事。	


10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15C-1		生態系の中で暮らす	
定員	何人でも	参加費	無料
10:30~12:00 90分		<p>都会っこだった加藤大吾がセルフビルドして移住するまでの軌跡と、生態系の中に住んでしまったら、自分に、家族に、地域にどんなことが巻き起こったのか、そして学んだのか?というお話。一方で、それをベースにNPOで“いつもの暮らし”つまり、生態系の中に生きるということ自体を環境教育プログラムとして提供している。体験した人の日常への影響やその効果、企画の留意点、指導方法などをお話します。</p>	
 <p>加藤大吾さん 新津里子さん 都留環境フォーラム 代表理事/事務局長</p>		<p>加藤大吾 2006年移住。開拓、整地、建築、畑、田んぼ、にわとり、ひつじなどを始め、生態系の中に暮らすということを選択し続けています。</p> <p>新津里子 2010年山梨県都留市に移住、現職に就き、田舎暮らしを始めました。田んぼ、畑、山仕事という日々。また、NPO内に「里創社」という編集部門を統括しています。</p>	

15C-2		馬のいる暮らしを復活する	
定員	25人	参加費	1,000円
10:30~12:00 90分		<p>文化を継承することが環境の保全に貢献します。これらは環境教育に位置付くのではないのでしょうか?このような文化的活動を自らすればするほど、環境に貢献できるのではないのでしょうか?先人が実践してきた持続可能な暮らしの技術やそれを持続可能にする精神性を伝承する。そのものが環境教育「馬耕技術の伝承」として、事業展開してみました。その現場での感触を報告します。また、実際に馬に触れて、馬耕という技術の理解を深めます。</p>	
<p>岩田和昭さん 都留環境フォーラム 副代表理事</p>		<p>2013年山梨県都留市に移住し、現職に。持続可能な農業を実践するために馬を使った耕作の技術を自ら体得し、NO-OIL米の生産に挑戦し、成功。また、馬耕技術を全国に広げる活動として「馬耕キャラバン」「働く馬フェス」、また、日本文化を復活させる活動に重きを置き、持続可能な暮らしをテーマにした活動を展開しています。</p>	



10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15C-3		活動に絵本を取り入れよう！～子どもと自然をつなぐ絵本～	
定員	20人	参加費	無料
	10:30～12:00 90分	子どもの本の専門店の店員でもある私が選ぶ、自然を楽しむ「絵本」を紹介します。また、絵本は読んでもらうと印象が変わることもあります。参加者同士で「読み聞かせ」をして、子どもの気持ちで絵本を感じたり、考えたりする時間を持ちたいと思います。現場で役立つ絵本の活用方法や選本のポイントなども伝授。幼児の活動指導者向けです。	
	奥野千夏さん aso-bio 主宰	JEEF 自然学校指導者養成講座4期生。ホールアース自然学校に勤務後、子どもの成長を間近で感じながら自然体験をしたいと、保育士資格を取得。保育士歴8年目。現在は、静岡市で非常勤で保育士をしながら、「こどもの本とおもちゃの店 百町森」週末店員や田貫湖ふれあい自然塾の「森のようちえん」を担当をしています。	



15C-4		フットパスによる地域おこしの事例	
定員	何人でも	参加費	無料
	10:30～12:00 90分	「フットパス」を知っていますか？フットパスとは、『森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のことです。イギリス発祥で世界に広がり、今日本でも各地で広がっています！！フットパスの魅力や地域住民との連携、移住のこと等楽しくお話しします！！	
	罐水愛さん 信州アウトドアプロジェクト 事務局長	保育士養成の専門学校を卒業後野外教育フリーランスとして活動。2008年よりNPO法人信州アウトドアプロジェクト(以下SOUP)理事就任。2012年4月からSOUP事務所を長野県栄村へ移転。自然体験活動の場として栄村を選んだが、最高の暮らしの場でもあることを実感。仕事の傍ら村の母ちゃん達とトマトケチャップを作り販売しています！	



10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15C-5		指定管理者による青少年教育施設の運営	
定員	20人	参加費	無料
10:30~12:00 90分		朝霧野外活動センターは、非営利組織がグループを組み、指定管理者として運営している青少年教育施設です。全国的にも珍しい形での施設運営の実際について、主催事業と利用団体の受入れ事業を中心としてご紹介します。私たちの取り組みを一例として、青少年教育施設を指定管理者が運営することの良さや課題等について考えてみたいと思います。	
櫻井良樹さん 朝霧野外活動センター 事業課長		大学1年生でキャンプと出会って以来、(特活)静岡県キャンプカウンセラー協会に所属して子ども達のキャンプの指導者としての活動を続ける。2007年より朝霧野外活動センターの指定管理者となった日本キャンプ協会グループのスタッフとして、引継ぎ業務から施設の運営に携わっています。	


15D-1		再チェック! 地域おこしコーディネーター術	
定員	20人	参加費	無料
	13:00~14:30 90分	野外体験やエコツアーなどは、農山村漁村の地域振興の切り札として期待されている一方で、地域との連携に、課題や難しさも抱えています。そこで、地区住民や外部団体と協力し合いながら空き家を確保し「1年間に1家族の移住」を実現してきた事例をもとに、どのように地域と関わっていけばよいか一緒に探ってみましょう。	
	今永正文さん 日本環境 NPO ネットワーク 事務局長	1970年山形県生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後、日本野鳥の会に入局し、横浜自然観察の森でのレンジャー等を歴任。2001年静岡へ引っ越し、NPO 法人しずおか環境教育研究会に勤務後、独立。2009年に静岡市の中山間地・日向へ移住し、現在、大川地域振興協議会の移住コーディネーターとして活動中。	

10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15D-2		発達段階と遊びの展開～幼児期の自然体験の意義とは～	
定員	20人	参加費	無料
	13:00～14:30 90分	自由奔放な幼児期のプログラムって難しい!? 幼児の発達段階や特徴を知っていれば、そんな自由さも楽しめるはず! 幼児期における自然体験の意義や展開のポイント、子どもに寄りそう指導者の心構えについてもお話します。幼児期は五感をフルに使い、人との関わり、遊びの中で非認知能力を伸ばす大切な時。幼児教育者に関わらず、ぜひ気軽にご参加ください。	
	奥野千夏さん aso-bio 主宰	JEEF 自然学校指導者養成講座4期生。ホールアース自然学校に勤務後、子どもの成長を間近で感じながら自然体験をしたいと、保育士資格を取得。保育士歴8年目。現在は、静岡市で非常勤で保育士をしながら、「こどもの本とおもちゃの店 百町森」週末店員や田貫湖ふれあい自然塾の「森のようちえん」を担当をしています。	

15D-3		旬の食農ワークショップ ～豆の力・種のカ～	
定員	20人	参加費	無料
	13:00～14:30 90分	“食べることは命をいただき、命をつなげていくこと”当たり前のことが実感できなくなっている現在。「人間は食べなきゃ生きていけない」という事実を受け入れ、前向きに食に関心を持つことで、生きることそのものが楽しくなってくる。子どもだけではなく、大人も一緒に驚く・発見する“農で育つセンスオブワンダー”が実感できます。	
	每熊幸代さん イオン清水店 社会貢献担当	イオン清水店に勤続15年、店舗を利用した産学共同の環境教育活動を企画、コーディネートしている。NPO 法人しずおか環境教育研究会会員で、食農体験プログラムを立ち上げ、現在も継続主催。市街地近くの里山で毎月小学生親子を対象にプログラムを開催している。「巡る季節の営みに寄り添った暮らしが人の心も体も元気にする」を信条に、人と人、人と自然それぞれを活かし、心地よくつながるために農の力が最も有効! と考える。野菜ソムリエ・食育指導士・環境学習指導員。	

10月15日(土)の体験プログラム・分科会情報

15D-4	“地球市民意識”が全体の平和に貢献する東アジア地球市民村		
定員	40人	参加費	無料
	13:00~14:30 90分	第3回東アジア地球市民村(2017/5/20~2日)日中韓台4カ国から400名が参加予定。個人の暮らし方や意識によって環境問題が改善して国際的な協働が起こる！市民同士が交流、地球市民意識を醸成し、多様な幸せ感を尊重します。この発表では第一回、第二回の報告と第三回に向けての展望を語ります。	
	加藤大吾さん 都留環境フォーラム 代表理事	20年間、環境教育分野の現場で活動しています。2006年には山梨県都留市に土地を購入し、開拓、建築、田んぼ、畑、家畜開始。自ら生態系の中で暮らし始め、近頃は、アジアを中心に持続可能な暮らしをしている地域との交流などによって全体の幸せに貢献しようと活動しています。	